

手をつなごう2010

岡山県立東備支援学校
支援部だよりNO. 8

アセスメント紹介 ②

アセスメント紹介第2弾！～ということで、今回は社会性に関する検査をご紹介します。

幼少時から社会性の支援を丁寧にすることで、就労適応もずいぶん違うように感じます。学力面からの実態把握も大切ですが、社会性の面から実態をとらえておくのもとても大切なことだと思います。

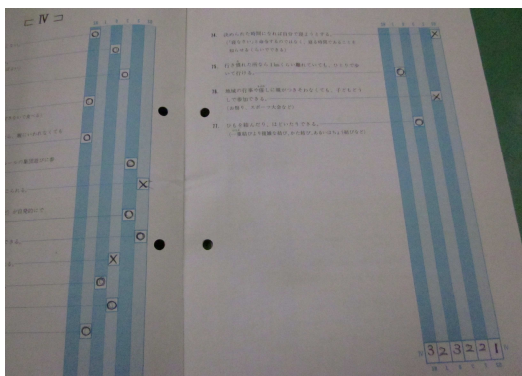
新版S-M社会生活能力検査

【特徴】

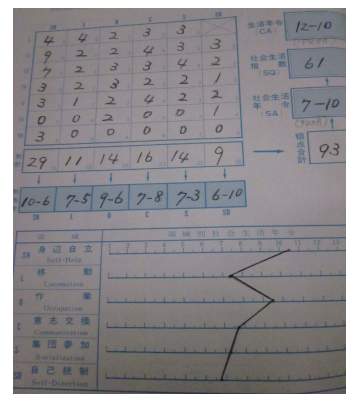
- ・乳幼児から中学生まで使用できます。
 - ・社会生活年齢（SA）が算出できます。算出方法も簡単です。
 - ・社会生活能力の中の領域別（＊6領域）の差異をみることができます。
- ＊身辺自立・移動・作業・意思交換・集団参加・自己統制

【検査方法】

- ・教師や保護者が記入するだけで可能です。各項目について○（できる・機会があればできると思う）か、×（できない・機会があってもできないと思う）を記入していきます。（約20分）



記録用紙 例



プロフィール 例

【購入金額】

手引き	2, 100円
記録用紙（20名）	7, 560円
サンプルセット（手引き＋用紙5部）	3, 990円

【支援への生かし方】

学校の様子だけで分からない項目もあるかもしれません。担任の先生と保護者の方が一緒につけることで、情報共有ができたり見方のずれが小さくなったりしたケースもあります。数値を出すことだけが目的ではありませんから、最大限に利用できるとよいですね。

知的に障害がある場合でも、さまざまな体験を積み、丁寧に支援をしていくことで、社会性は伸びていく場合が多いようです。各項目の内容をみていくことで、「こんなこともさせてみたらいいかも！」と指導のヒントになることもあります。学校と家庭とで協力しながら進めることができるとより効果的です。